

情報通信審議会 情報通信技術分科会
携帯電話等高度化委員会
700/900MHz帯移動通信システム作業班（第10回） 議事要旨（案）

1 日時

平成23年6月22日(水) 10:30~11:40

2 場所

中央合同庁舎第2号館(総務省) 8階 共用第1特別会議室

3 出席者(敬称略)

作業班構成員:

| | |
|--------|----------------------------|
| 若尾 正義 | (社)電波産業会 |
| 石川 禎典 | (株)日立製作所 |
| 石田 和人 | クアルコムジャパン(株) |
| 伊藤 健司 | ノキアシーメンスネットワークス(株) |
| 上杉 浩之 | 日本電気(株) |
| 木津 雅文 | トヨタ自動車(株) |
| 草野 吉雅 | 京セラ(株) (代理:沖野 健太) |
| 小林 明 | (社)電子情報技術産業協会 |
| 佐々木 邦夫 | パナソニック(株) |
| 菅田 明則 | KDDI(株) |
| 菅並 秀樹 | 日本放送協会 |
| 杉本 明久 | (社)日本CATV技術協会 |
| 高田 仁 | (社)日本民間放送連盟 |
| 田中 伸一 | ソフトバンクモバイル(株) |
| 谷口 正樹 | 富士通(株) (代理:大山 淳) |
| 土居 義晴 | 三洋電機(株) |
| 中川 永伸 | (財)テレコムエンジニアリングセンター |
| 中川 義克 | インテル(株) |
| 中津川 征士 | 日本電信電話(株) |
| 西本 修一 | (財)移動無線センター |
| 浜名 康広 | (財)日本移動通信システム協会 |
| 古川 憲志 | (株)NTTドコモ |
| 細野 清文 | (株)ウィルコム |
| 牧野 鉄雄 | 日本テレビ放送網(株) |
| 諸橋 知雄 | イー・モバイル(株) |
| 山本 裕彦 | シャープ(株) |
| 要海 敏和 | UQコミュニケーションズ(株) (代理:伊藤 泰成) |

説明者

| | |
|-------|---------------------------|
| 川瀬 克行 | パナソニックSSインフラシステム(株) |
| 白石 和久 | パナソニックシステムソリューションズジャパン(株) |
| 吉野 洋雄 | テレビ朝日(株) |

事務局:

総務省 総合通信基盤局 電波部 移動通信課長 田原、同課 課長補佐 中里、同課
 課長補佐 竹村、同課 第二技術係長 松元

4 配布資料

| 資料番号 | 配布資料 | 提出元 |
|----------------|---|-------------------------|
| 資料700/900移10-1 | 700/900MHz帯移動通信システム作業班(第9回)議事要旨(案) | 事務局 |
| 資料700/900移10-2 | FPU-ITS共存検討結果報告資料 | FPU-ITS共存検討アドホックグループ |
| 資料700/900移10-3 | ラジオマイク-ITS共存検討結果報告資料 | ラジオマイク-ITS共存検討アドホックグループ |
| 資料700/900移10-4 | 700MHz帯における携帯電話システムと地上テレビジョン放送システムとの間の電波干渉評価に関する調査検討 説明資料 | NTTドコモ |
| 資料700/900移10-5 | 900MHz帯MCAシステムの周波数移行に伴う周波数共用技術に関する調査検討 説明資料 | パナソニックSSインフラシステム |
| 資料700/900移10-6 | 920MHz帯及び950MHz帯電子タグシステムの周波数有効利用方策に関する調査検討 説明資料 | パナソニックシステムソリューションズジャパン |
| 参考1 | 700/900MHz 帯移動通信システム作業班 構成員 | 事務局 |
| 参考2 | 700/900MHz 帯における干渉検討の状況 | 事務局 |

5 議事概要

(1) 前回議事要旨について

前回議事要旨(案)(資料81-700/900移10-1)は、作業班構成員に事前を送付されていることから読み上げは省略して配付のみとし、気づきの点があれば、6月28日(火)までに事務局まで知らせることとなった。(その後、修正意見等は特になかった。)

(2) 干渉検討の状況について

ア FPUとITSとの干渉検討について

土井構成員から、資料81-700/900移10-2に基づいて、FPUとITSとの干渉検討の状況について説明があり、その後次のとおり質疑応答があった。

田中構成員：P13の「ITS実運用時の希望波」とは具体的に何を指しているのか。

土井構成員：計算上、ITSがエッジに存在する時の値で計算を行っているが、ITSの実運用時に、常にエッジに存在することはないとの想定から数デシベルのマージンが得られるため、共存できるとの結論が出たものである。

中津川構成員：P24に記載された各改善策の具体的な改善量はそれぞれどの程度か。

土井構成員：記載のあるマスク規格値強化で25dB、製造マージンを考慮したフィルタの実力値を併せて、所要改善量65dBの半分程度は改善が見込める。また、FPUのアンテナの向きを調整することにより20dB程度の改善が見込め、ITSの間欠送信やFPU伝送時のインターリーブを考慮することで共存が可能である。

イ ラジオマイクとITSとの干渉検討について

土井構成員から、資料81-700/900移10-3に基づいて、ラジオマイクとITSとの干渉検討の状況について説明があり、その後次のとおり質疑応答があった。

田中構成員：P38に記載されているラジオマイクからITSへの与干渉について、希望波レベルを考慮すれば共存可能とあるが、どのようにして所要改善量とつながるのか。

土井構成員：モンテカルロ・シミュレーションを行い、干渉確率が2%以下になったということ。「ITS希望波レベルを考慮」と書いている。

古川構成員：ラジオマイクの運用方法等による干渉の緩和とあるが、具体的にどのような手法を想定しているのか。

菅並構成員：例えば路側機から離れることやチャンネル配置によるガードバンド効果などが考慮できる。

古川構成員：車載器とラジオマイクの干渉においてはどのような手法があるか。

菅並構成員：ITSの間欠送信やラジオマイクの誤り訂正などにより改善が期待されるなどが考えられる。

ウ 携帯電話とTV放送との干渉検討に係る実証実験について

古川構成員から、資料81-700/900移10-4に基づいて、携帯電話とTV放送との干渉検討に係る実証実験の状況について説明があり、その後次のとおり質疑応答があった。

高田構成員：LTEからTV受信の所要ガードバンド幅を検討されるということだが、テレビの受信についてはマージンをすべてLTEで使うわけにはいかないもので今までI/N基準での検討を進めてきたが、そこも考慮していただきたい。

木津構成員：調査検討会が立ち上がったということだが、この内容は随時報告されるのか。

事務局：ある程度の進捗があった時には、本作業班及び委員会へ報告するようにしていきたい。

エ MCAと携帯電話との干渉検討に係る実証実験について

パナソニックSSインフラシステム 川瀬氏から、資料81-700/900移10-5に基づいて、MCAと携帯電話との干渉検討に係る実証実験の状況について説明があり、その後次のとおり質疑応答があった。

諸橋構成員：調査検討会のメンバーはもう決まっているのか。

川瀬氏：現在、声がけをしているところである。

諸橋構成員：我々も参加したいと考えているので、よろしく願います。

オ RFIDと携帯電話との干渉検討に係る実証実験について

パナソニックシステムソリューションズジャパン 白石氏から、資料81-700/900移10-6に基づいて、RFIDと携帯電話との干渉検討に係る実証実験の状況について説明があり、その後、全体を通して次のとおり質疑応答があった。

牧野構成員：電波法関係審査基準には、各システムの熱雑音に関する基準などがあり、隣接システムからの干渉などについて考えられ、熱雑音配分等が規定されている。今後隣接システムが変わった場合は、条件が変わるので既存システムの運用が問題ないか検討する必要がある。また、熱雑音配分が変わる場合は電波法関係審査基準の見直しも必要と考える。

若尾主任：実証実験が終わらなければ最終報告書はまとめられないのか。

事務局：最終報告書についてはそのとおりとなるが、それまでも中間報告などを本作業班で行っていくこととし、技術的条件がまとまり次第、適宜委員会へ報告することとしたい。

(3) その他

事務局から、次回作業班については未定であり、主任と相談の上、別途連絡されることが連絡された。

以上